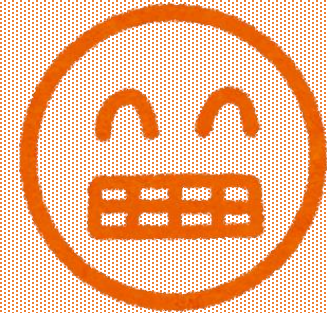


**六郷助けあいプラットフォーム**

**話し合いの場**



**平成31年 3月5日 (火)**

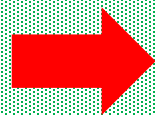
# 本日のタイムスケジュール

時間	内容
18：30	プラットフォームの効果とねらいの共有
18：50	1年を振り返って気づき、成果等について
19：30	休憩
19：35	お知らせコーナー
19：45	来年度に向けた活動について
20：15	話し合いのまとめ
20：30	終了

# 六郷助けあいプラットフォームが必要な背景

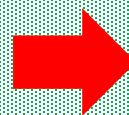


時代の変化



## 人々の生活が変化

ライフスタイルの変化・多様化  
インターネットの普及、店舗の  
充実、家庭用電化製品の進化、  
核家族化、単身世帯の増加



## 生活が便利になる一方で...

昔は当たり前だった**助けあい**が**希薄化**  
し、サービスは、行政や企業から受け  
るものという感覚が。。。  
**地域や人に対する関心が薄れている。**

我が事が必要

## 社会環境の変化

少子高齢、日本の人口減少



## 福祉課題の変化

子どもの貧困、ダブルケア、8050問題



丸ごと受け止める必要性

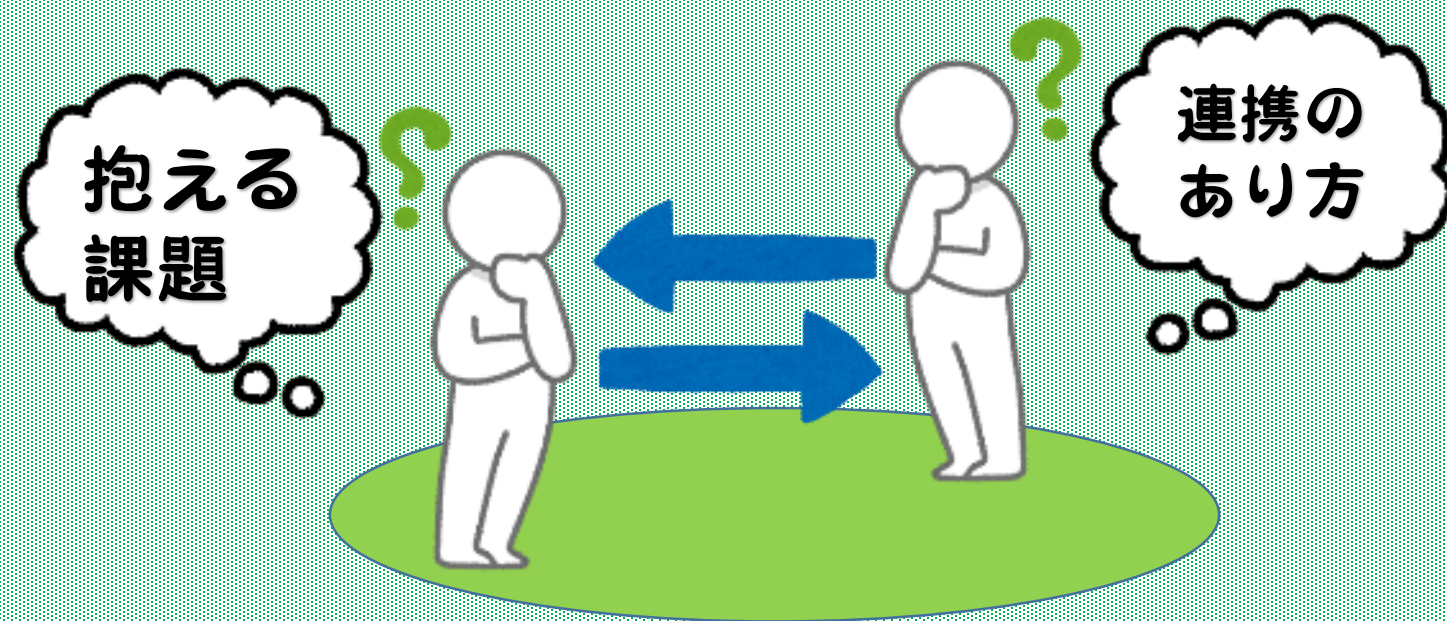
これまでの話し合い  
でもココが肝！

**福祉の課題は複雑化**し、一つの分野・団体だけでは解決は困難になってきた。  
人口が減る中、**福祉の人材不足**も。サービスが今後担えるかが問題に。。

こうした時代変化を捉えることと、将来に向けた対策を今から取り組むことが必要  
**我が事・丸ごと「地域共生社会」や「地域包括ケアシステム」**

# 連携が必要だと言われているのになかなか進まない理由

「それぞれが抱える課題」「連携のあり方」に相違があるままでは、連携はうまく図れない・・・。



専門、立場の違う人が集まると話し合いが難しくなる。

課題認識が違う

人は関心あるものを見る

判断基準は経験からくる

# 助けあいプラットフォームをモデル的に試行（平成29年度）

【初回】 4回連続講座

ステップ  
1

お互いの活動を知る



ステップ  
2

それぞれの立場から  
見える課題を共有



ステップ  
3

見えてきた課題を  
掘り下げて本質を探る

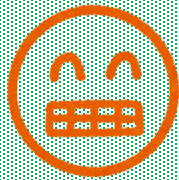


ステップ  
4

連携して取り組めること  
足りない機能を把握



地域課題の現状把握と  
話し合いの場の下準備が完了



# 平成29年度の話し合いで明らかになったこと

## 見えてきた課題の本質

### 子ども

- 子どもの実際（コミュニケーション方法・遊びなど）がわからないことが多い。
- 「わからない」ということも地域の課題である。

### 支援者

「個人情報保護」は壁ではなく、「個人情報をどう使い、管理するのか」の情報が共有されていないことが不安につながっている。ただし、本人同意を得ることは容易ではない。

### 親・家庭

- 必要なのに相談できない人、孤立している人が相談できる仕組みが必要
- SOSが出せる地域づくりが必要

### 人材

- ライフスタイルが変わってきていることをとらえられていない。
- 手伝ってほしいことが明確にできていない。
- 今までのやり方を変えるのは大変である。

## 連携して取り組めること

- 支援者側がしっかりニーズを把握する。
- 支援者と支援されるの関係ではない交流の場、機会をつくる。
- いろんな側面の個人情報保護を勉強する。
- 助けあいのルールづくり
- 出来ないことを明確にした求人募集
- 知らない団体とももっと関わりを持つ

### 地域に足りない機能【募集掲示版】

- 子ども食堂や学習教室  
⇒目的をきちんともったもの
- インターネットに関わるしくみ
- 親・子と地域が知り合える環境
- SNSやネットによる情報発信機能



# 平成30年度の話し合い

## 地図で状況把握



## 地域だからこそ出来ることとは？



## アイデアを整理

- ◎住民がSOSを出しやすく発見しやすいしくみ
- ◎地域活動に参加しやすいしくみ
- ◎まちに関心をもってもらうしくみ

## しくみが整うために必要なことを考察

- 「交流の場」を地域住民が作ることによって顔のみえる環境を整備できる。
- 子どもや知り合いなど誰かと一緒なら参加しやすい。
- 子どものころからの関係づくりが大事。

### ◎見えてきたこと

- 公園に子どもたちが多く集まっている。
- でもその公園で子どもを見守るしくみが少ない。
- その地域、世代ならではの集まる場所がある。
- 地図上だけではわからない子どもたちの実態はまだ見えない。

### ◎見えてきたこと

- 大人が楽しそうに活動をしていることが町の良い雰囲気をつくる。
- 何か地域のためにやりたいと思っている人は結構いる。でもなかなか入るのが難しい。

上記3つのしくみを整備することが課題解決の最初の一步



# 平成30年度の勉強会

## 勉強会テーマのアンケート結果

1	個人情報
11	子どもの実態
11	他の団体の活動
2	行政の制度



7月	「地域活動における個人情報の共有と取扱い事例」 講師: 田園調布学園大学 村井 祐一 氏
10月	「子どもの居場所を地域住民がつくることでどのような効果があるのか」 講師: 気まぐれ八百屋だんだん 近藤 博子 氏
12月	「六郷の子どもたちの放課後を知る」 講師: 六郷地区の児童館長 放課後等デイサービス ポジティブ
2月	「公園で子どもたちを見守る活動」 講師: もっと遊べる五丁目公園の会 廣川 和徳 氏

## 2月の話し合いで出たご意見

- 望む姿と実情が開きすぎている気がするので本当にできるかと思ってしまう。
- もっとリアルな実情（深い話）を知りたい。
- 話していると何かやりたくなるので、やりながら考えていく
- 1月のシミュレーションで話したプランを実現したい。
- 実際にやるのが大事なのではないか。
- それぞれの立場で得た実態を話してもらおう。
- 思うようにいかないジレンマもあるが、小さなことから実現できたら。
- ここにきていない地域の方の声がわからないので、もっと声かけしていく必要があるのでは？



# プラットフォームでの効果とねらい

時間経過



予防的取り組み

学習塾  
トレーニングジム  
お祭り

子ども食堂  
サロン活動  
多世代交流

日本語教室



制度等による支援

学習支援 児童館

見守り活動

放課後等デイサービス

子ども家庭支援センター 児童相談所

地域包括支援センター 福祉事務所



もちろん社協も同じ参加者として  
一緒に行動目標を立てますし  
事業立ち上げなどの応援もします。

- 実態の共有
- 課題分析と整理
- 地域で出来ることの検討
- 連携して取り組めることの検討
- 行動目標を立てる
- 理解を深める

共有

六郷助けあい  
プラットフォーム

参加者の  
行動

- 実態の把握・発見
- 各事業の強化
- 活動の連携
- 新たな事業の立ち上げ
- 広報・呼びかけ
- 活動への理解・応援

# プラットフォームでの効果とねらい

六郷の子どもたちが（住民が）安心して暮らせるために

参加者の  
行動

共有

- 実態の共有
- 課題分析と整理
- 地域で出来ることの検討
- 連携して取り組めることの検討
- 行動目標を立てる
- 理解を深める

- 実態の把握・発見
- 各事業の強化
- 活動の連携
- 新たな事業の立ち上げ
- 広報・呼びかけ
- 活動への理解・応援

今はココ



共有

行動

行動

行動

行動

行動

行動

口コミとつながり

六郷助けあいプラットフォーム

確認・共有しておきたいこと

# 「プラットフォームの話し合い等を通じての変化・成果」

## ★こどもの実態把握・発見ができたこと

- ・地域で見かける子どもたちの様子が、前より気になるようになった。

## ★他団体との連携・交流が図れたこと

- ・ここで知り合った団体の活動を見学しにいった。
- ・活動を手伝った。
- ・ここで知り合った団体の活動を自分たちの団体のメンバーや地域の方にもPR・紹介した。

## ★話し合いや勉強会のなかで理解が深まったこと

- ・参加する前と後で、考え方や理解が深まった。
- ・地域だからこそできることのメリットがわかった。

## ★自身の団体の事業に反映できたこと

- ・ここでわかったことを自分たちの団体のメンバーにも伝えた。

# 月1回の集まりの2時間を有効的にしたい 来年度の進め方の提案

## 18：30 「第1部」

現在の課題となっている子どもの実態把握と  
顔の見える関係づくり（交流の場の創出）の情報共有と  
次回までの行動目標について話し合う。

## 19：30～45 「第2部」 （必要に応じて実施）

- ① 「取り上げたいテーマ」をあらかじめ募集して話し合う。
- ② 勉強したいテーマについて学び合う。

20：30

# 「六郷の子どもたちが(住民が)安心して暮らせるまちをめざして」

- ◎子どもの実態把握が必要。
- ◎顔の見える環境を整備するために「交流の場」が必要。
- ◎地域活動に参加しやすいまちになるためには、子どもや知り合いなど誰かと一緒なら参加、子どものころからの関係づくりが大事。

## 年間を通して取り組みたいこと（年間目標）

社協だったら・・・

- ・交流の場づくりに取り組んでくれる住民や団体の立ち上げ支援を行う。
- ・このプラットフォームの取り組みをこの場に参加していない方にも広報をして参加の輪を広げる。

## 次回(5/7)までに取り組みたいこと（行動目標）

社協だったら・・・

- ・まずは5/7の参加呼びかけをして（町会長会議に参加）、何で顔に見える関係づくりが必要なのかなどを伝えていく。
- ・現在動き出そうとしている活動の支援・応援をする。

次回は、

**5月7日（火）18時30分**から  
実施報告会もかねて行います。  
六郷地域力推進センター4階会議室

どうぞよろしくお願いいたします！